

こうふ町 議会だより



ついにベールを脱いだ 新庁舎

補正予算	2P~3P
一般質問	4P~8P
陳情報告	9P
ひと言	10P

議会のことをわかりやすくお伝えします

一般会計47,088千円減額
 予算総額4,578,341千円

補正予算

一般会計

歳出の主な内容

令和2年6月定例会は8日召集され12日までの5日間と定めて開かれた。今回の定例会には、初日令和2年度一般会計補正予算と特別会計補正予算、条例の制定及び改正等9議案が提出された。また、最終日には江府町農業委員会委員の任命11議案、一般会計補正予算1議案が上程され議会でこれらについて慎重に審議した結果、いずれも原案通り可決した。9日の本会議では5名の議員が一般質問に立ち、活発な議論が展開された。

地方創生推進交付金事業費 28,920千円
 移住定住促進事業費 2,000千円
 道路維持費 2,000千円
 道路新設改良費 △56,625千円
 △52,703千円
 新型コロナウイルス対策事業分
 総合福祉センター管理運営費 (感染予防対策) 3,838千円
 商工振興費 2,200千円
 学校情報通信技術環境整備事業 (タブレット導入) 6,154千円

特別会計

歳出の主な内容

国民健康保険特別会計 (施設勘定) 施設管理費 5,531千円
 介護保険特別会計 (保険事業勘定) 神奈川財産区特別会計 1,895千円
 財産区管理会費 △609千円

条例の制定・改正

議案	内容
議案第46号(専決処分) 江府町介護保険条例の一部改正について	平成27年度から行われてきた低所得者層(第1~3段階)の保険料軽減について令和元年10月の消費税率10%への引き上げに合わせてさらに強化する。軽減は段階的に行うこととし、年度途中からの消費税率引き上げであった昨年度は軽減率を半分の水準に設定、令和2年度からは完全実施するもの。
議案第47号 江府町長等の損害賠償責任の一部免責に関する条例の制定について	町長等が町に対する損害を賠償する責任を負う場合において、当該町長などが職務を行うにつき善意かつ重大な過失がないときは、当該賠償の責任を負う額から、基準給与年額にそれぞれ次にあげる数を乗じて得た額を控除して得た額について、その責任を免れることとする。 (1) 町長6 (2) 副町長、教育長若しくは委員、選挙管理委員会の委員または監査委員4 (3) 農業委員会の委員、固定資産評価委員会の委員または地方公企業の管理者2 (4) 町の職員1 ※損害賠償責任額-最低責任限度額(町長等の基準給与年額×乗数)=免責額
議案第48号 江府町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	学校医・保育所嘱託医の報酬額 保育所嘱託医 年額72,800円(従来33,600円) (学校医と同額の72,800円に改正)
議案第49号 江府町税条例の一部改正について	①新型コロナウイルス感染症及び蔓延防止のための措置の影響による町税の徴収猶予 ②新型コロナウイルス感染症等に係る寄附金税額控除の特例 ③軽自動車税の環境性能割の臨時的軽減の延長 ④所有者不明土地等に係る固定資産税の相続人等の申告の制度化 ⑤未婚のひとり親に対する税制上の措置及び寡婦(寡夫)控除の見直し ⑥地方税法改正による条項ずれ及び字句等の改正

議会からのお知らせ

新議会議事務局長

平成30年度から2年間を務めていた議長を継ぎ、令和2年3月末で定年を迎え、退職となりました。これからの感謝とともに、今後の益々のご活躍をお祈りします。
 なお、4月1日付で農林産業課から松井英樹氏が後任の議事事務局長に就任されました。引き続き、行政と議会の橋渡し役として、また、町民に開かれた議会運営について、よろしくお願います。

議事事務局長
 松井 英樹 氏



コロナ禍を全町民の力で乗り超えよう!



川端 登志一



川端議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

新型コロナウイルス対策について

質問 新型コロナウイルスの終息は長期にわたるとの専門家の報告がある、町民の安心安全を如何様に確保するのか?

町長答弁

フクチンなど有効なものも出現すると思うが、まずは国・県の動きをしつかり見据え町として何が出来るかを考えて対応していく。町民の方には町からの情報に対して自分の身を守る事が周りの人達を守ることに繋がるという認識のもと実直に行動され感謝している。

質問 自粛要請の影響により低下した経済活動の支援計画は?

町長答弁

国の補正予算等も決まりこれを活用し必要に応じ随時対応する。

質問 三密を回避しながらの福祉活動や文化活動の再開の計画は?

町長答弁

「鳥取県コロナに打ち克つ新しい県民生活推進会議」が立ち上がっている、町もそれに準じて対応したい。

質問 コロナ予防には良質な栄養を摂取して自己免疫力を高めることが重要である、買い物困難

難な人達のため食材や食事の配達を町がリードして行つべきでは?

町長答弁

社協と協議をしながら、町民上げてボランティアの輪を広げていくような動きができればいいか考えてみたい。また町営タクシーとセツトで貨客混載の買い物代行もやってみる価値はあると思う。

質問 プレミアム付き食事券をバランスよく使用してもらうため町内を巡るツアーなど企画してはどうか?

町長答弁

町内限定の食事つきツアーということですが、町内には観光業者もいるので島根県内を含め、範囲を広げて考えているが今しばらく安全度を見極めてから実施したい。

質問 不要なマスクを必要な人に届くような仕組みづくりを考えてみてはどうか?

町長答弁

町民の方で間に合っているマスクがあれば町や社協のほうに提供頂く様、広報を通じて呼びかけたい。

新庁舎と機構改革について

質問 一年前町長は質問に答えて業務の効率化や部分的に働き方の形が変わる可能性について言及した、移転後の機構改革働き方改革について特に力を入れた所について訪ねたい?

町長答弁

町長になってから何回か機構改革を行いかなり課の数を減らしたので今後この形が大きく変わることはないが、長年の懸案事項だった福祉保健課以外の全て

の課が一つに纏ることに成り色々な不便が解消する大きな転機になる。作業に関して出来るだけ紙の資料を無くして環境にも優しく迅速にモノが探せる等準備をしている。

質問 この機会をとらえて人材育成基本方針の啓蒙浸透方法に町長独自のアイデアはあるか?

町長答弁

江府町のような小さな町は職員が一丸となって物事に取り組むことが大事と考えている、例えば会社の経営方針、行動指針のようなものを職員全員に浸透させる。それで初めて小さな組織が優れた組織になると考えている。それに代わる江府町ならではの「クレド」を職員と共に作成し実践したいと思っている。

※「クレド」:「信条」「志」「約束」を簡潔に表現した文言。

第2期江府町地方創生総合戦略



三輪 英男



三輪議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

農業の振興について

質問 若者人口の多くが都会に流れ、農業の後継者がどんどん減っているなか、本当に江府町の農業は持続可能な状態かどうか考えた場合、農業のこれからのあり方、変化がとも重要な時期に差し掛かっていると思います。【具体的内容】

鳥獣被害対策「ワイヤーメッシュ」の補助金の対応。集落営農推進事業の効率化・共同化の支援・農業公社の作業受託効率化の支援等々きめ細やかな施策が施されております。今後の農業の振興について町長の見解を伺います。

町長答弁 私は江府町農業のやっぱり一番の問題は担い手だと思えます。一生懸命頑張つて農業されている方がおられますけども、やっぱり高齢化してあられます。それを解決するためには、一つは農業自体の生産性を向上させる、効率を上げるといふ、あるいは出ていく者を減らす、又は付加価値をつけて高く売っていく、そういった魅力があるものについて、若者がやってみようかという気持ちになつていく。幸いと言つたらおかしいですけど、いま世の中が新型コロナウイルスの関係がありまして、やはり都会にいくより地方もいんじゃないかなという考

農林産業課長答弁 ワイヤメッシュの件ですが、現在はメッキがかかっておりますので以前よりは比較的耐用年数が長い状態でございます。下安井集落のされた当時はさび対策が取られていないものでした。私も確認しておりますが大変腐食のしやすいものでした。更新の際に、また新たな方法をご提案させて頂ければと思っておりますのでそれまでの間維持管理をお願いします。

町長答弁 就労の支援の推進ですが、おっしゃいますように、魅力ある仕事ってというのは、安定した雇用が継続的にできるというのが当然のことです。その仕事をやっていたら

うかるとか、一定の給料が得られる、あとは最近の若い人であれば休暇も取れてそんなにしんどい作業もないというふうなことが達成出来ればそれは当然向いてくると思えますけれどもなかなかそうは言っておれない現状もあります。その辺りどうすればいいのかなというところはやはりこれは本当に江府町だけで考えていくような問題ではなく、やはり努力するところは努力して取り組んでいただかなければいけないと思えます。

就労支援の推進

質問 江府町らしい地方創生を実現していくための重要な要因とし



奥大山農業公社 (旧米沢小学校)

人口減少の対策・秘策は 防災監の設置で災害に強い町づくりを



空場 語



空場議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

江府町の人口減少対策はどのように

質問 江府町は10年後には人口が20000人、20年後には15000人に減少するという予測があります。

町の存続が危ぶまれる状況となりますが、その対策はどのようなものかについて、町長の所見を伺います。

町長答弁

第2期の江府町まち・ひと・しごと創生総合戦略を、令和2年から5年計画で行います。

新しい人の流れ、産業をつくり、地域人材を育成して、将来にわたって持続的な町を目指します。

就農を目指す町の支援策は

質問 農業が目的で江府町に移住される方は農地や住居の確保が第一ですが、就農がしやすい江府町独自の支援策はありませんか。

町長の所見を伺います。

農林産業課長答弁

江府町独自の農業支援策は、特にありません。国や県においては、農業次世代人材投資資金制度や有給の研修制度等があります。

子供の出生を増やす町の創生戦略

質問 江府町の将来にわたって持続していくには

出生数が増えることが必要です。

出生数を増やし、子育て環境の充実のため、出生祝金を第一子、第二子に20万円、第三子には30万円を拠出して、将来の子供の数を増やしていく、地方創生戦略を行ってはどうか。

子供がいないと地域は消滅します。消滅を食い止める為に必要な施策と考えるが、町長の所見を伺います。

町長答弁

出生のお祝い金を出すことより、教育に力を入れたいと考えている。地域に対して愛着を持つ子供を育てていきたいと思っています。

新設の防災監の位置付けは

質問 新年度4月から「防災監」が新設になりました。

災害時には、どういう立場での対応になるのかについて、町長の所見を伺います。

町長答弁

災害から町民の生命財産を守ることは、町長としての使命で、防災監は町長の片腕となって、助言をしたりしていただきます。

災害時の新型コロナ対策は

質問 災害はいつ発生するかは分かりませんが、災害に備えた避難所の新型コロナ対策はできているのかについて町長の所見を伺います。

町長答弁

災害時の避難所の過密を防ぐ改修について

は、まだ行っておりません。避難所の対策については、現在、マスクや消毒液の設置等のソフト面での対策はとっております。

新庁舎に移転後の地域防災計画は

総務課長答弁

新庁舎に移転後の計画は現在作成中です。令和2年度中には必ず策定したいと考えています。又、新庁舎を第二次避難所としてを考えています。



江府町指定文化財の 保存と活用は



三好 晋也



三好議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

江府町の指定文化財はどのように保存管理されているか

質問 現在、江府町には約30件の町指定の文化財がある。代表的な例を挙げれば天然記念物として武庫の七色ガシ、無形民俗文化財として下蚊屋の荒神神楽、江尾十七夜のごだいぢ踊り等、そして、有形文化財としては民俗資料として価値の高い洲河崎及び久連の笠形連判状などが挙げられるが一説によると洲河崎の笠形連判状は紛失したと聞いている。これら数ある文化財がどのように保存管理されているか伺う。

教育長答弁

文化財は人々の文化的生活活動によって生み出され残されているもののうち、特に歴史的、文化的価値の高いものであり、その文化財を保存管理するとともに次世代に継承していくことは、大切なことと考えております。文化財の保存管理につきましては、文化財保護審議委員の一人に文化財保護指導委員としてお願いをし、定期的に巡回をしていただき異常がある場合は町に報告をして頂いております。また、文化財保護審議委員による視察も随時行うとともに、文化財担当者も台風や

観光資源としての価値と教育的価値は

質問 観光資源としての価値の高い文化財も多くあると思うが、有効に活用すべきではないか。また、小学生に対し地元愛を育むことを目的として文化財巡りなどを通してふるさと教育に役立ててはどうか。

教育長答弁

文化財保護法及び地教法の一部が改正され、その趣旨、内容は文化財の活用、あるいは観光、それと文化財については親和性があり、一般論として前向

教育課長答弁

洲河崎の笠形連判状につきましては鋭意捜索中です。

きに考えていく必要があると思っております。

また、本町の小中学校ではふるさとに誇りと愛情を持ち、将来の江府町を担う人材の育成を目指してコミュニティスクールや令和4年開校予定の義務教育学校でも、どのような学習活動が効果的か見直しを図りたいと思っております。

下蚊屋の大岩家住宅を新たに有形文化財に

質問 木地師の里、下蚊屋のシンボリックな建

造物である大岩家住宅を新たに町の有形文化財に指定すべきと思うが。

教育長答弁

大岩家住宅は2階には木地師の作業場があり、1階には伊藤宜堂先生作の木枠づくりの4枚戸などがあり、大変印象的な建物であります。当事者、関係者の理解と納得が得られるならば文化財指定に向けて検討してみたいと思っております。



大岩家住宅（下蚊屋）

今こそ町民に「寄り添う」行政手法を！！

～持続可能な集落づくりに「寄り添う」行政を～
～町民に「寄り添う」職員の育成・支援体制を～



森田 哲也

身近に感じる行政を

再質問 平井県政踏襲の疲弊も増している。集落と行政職員の関わりがより必要と考える。平井県政も地域の活性化には、行政の関わりが重要との方針だが、町長の考えを伺う。

町長答弁 協働路線 従来のような役場が主導する、役場に期待する方法でなく、平井県政の協働路線のように、町民の声を役場で共有し、寄り添っていく形が、本町の協働のまちづくりだと考えている。

再質問 地域と密接に 全ての事業計画で、地域協働には日常の連携が基本。行政と集落の密接な関係を、どう図っていくか伺う。



森田議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

再質問 集落担当職員 職員が集落に出て働くという事が最も大事。集落の相談役として、支援できるのが行政職員である。集落担当職員設置の意義がここにあると思うが伺う。

町長答弁 連絡調整 担当を決める方法もあるが、職員の力量に相違があり難しいと考える。担当外の事も受け止め、役場の中で連絡調整し、職員育成をしながら、必要な支援をする仕組みを考えたい。

再質問 寄り添う行政 職員の力量は、教育も大事だが、集落に出て経験を積むことが必要でないか。チームを組む方法もある。地域とともに行動し、身近に寄り添う行政が急務と思うが伺う。

町長答弁 通常業務 現場経験は、通常業務で積んでいき、職員としての信条や目標を浸透させることで職員レベルは向上する。特に仕組みを作らなくても、住民との距離を縮めることになる。

再質問 町民と一緒に 町民と一緒に行動する行政が地域活力になる。声なき声を確実に吸い上げる仕組みなど、思い切った大改革が必要と思うが伺う。

町長答弁 意識改革 新たな仕組みを作ることもなく、職員のレベルを上げる、意識を変えられることにより、オール江府町役場で対応できると考えている。

再質問 職員の育成を 3年間で10人の中途退職者状況をみると、住民サービスの低下が考慮される。職員育成・支援状況は重要と思うが伺う。

町長答弁 広く聞く 中途退職者の中には、本人の生き方の選択もある。職員の人材育成の必要性は十分認識している。広く聞く耳を持っている。職員育成を考えた。

町長答弁 状況ない 別に来てはいけないことはなく受け入れていたが、そういう感じでない人もいます。

再質問 声なき声聞く 職員の中にも声なき声の人もいます。気軽に話ができる環境とは、そういう人たちの対応を言っている。細かな職員育成が、町民に寄り添う職員育成につながると思う。

教育長答弁 講じる メンタルヘルス対策についてしっかりと把握し、対策を講じていかなくてはならないと、思っている。

◎鳥取県西部広域行政管理組合報告

鳥取県西部圏域では、各市町村や一部事務組合が設置・運営するごみ処理施設の老朽化が進行し、また民間で委託処理する最終処分場の埋め立て期限も近づいていることから、西部圏域のごみ処理の在り方検討委員会を設置し、検討の結果今後の施設の集約化等の構想として「一般廃棄物処理施設整備基本構想」が策定された。

この中で、西部町村全体では米子市に1施設を整備することがコスト的には一番優位性が高いことが示されたが、日野郡3町で独自に施設を整備することもコスト的には優位性があることも示されており、今後の検討課題である。今後のスケジュールは、9月議会において方針を決定する予定である。

◎庁舎等公共施設建設調査特別委員会報告

6月10日議員全員で、新庁舎建設現場を視察し、現状を把握。

1. 新庁舎本体工事は順調に進捗しているが、外まわりの付帯工事が増えたために工期の延長が必要になった。なお、新庁舎での業務開始は令和3年1月12日(火)を予定している。
2. 庁舎入口に計画されている車庫棟は、庁舎利用の利便性や、視野的に問題があり、設置場所の再検討を要する。
3. 当初計画では今後も利用するとされていた、中学校の附属施設が老朽化しており、取り壊し跡地の有効利用の検討を要する。

陳情の審査結果

提出のあった陳情は、6月定例議会で審査した結果、下記のとおり決定しました

件名	提出者	審議結果
教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2021年度政府予算に係る意見書採択に関する陳情	鳥取県教職員組合西部支部 支部長 内田 浩文 鳥取県高等学校教職員組合西部支部 支部長 深田 卓也	採択 (全員一致)
「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書	鳥取県労働組合総連合 議長 田中 暁	趣旨採択 (全員一致)
地方財政の充実・強化を求める陳情	自治労鳥取県本部 執行委員長 山口 一樹 江府町職員労働組合 執行委員長 道下 尚徳	採択 (全員一致)

◎江府町農業委員会新委員が承認される

江府町農業委員会委員の任期満了に伴い、下記の11名の新委員が承認された。

住所	氏名	年齢	区分	地域
杉谷	加藤 直行	69歳	認定農業者等	米沢
宮市	松本 良史	37歳	認定農業者等	米沢
大河原	長尾 保	65歳	認定農業者等に準ずる者	江尾・日光
俣野	山本 信男	75歳	認定農業者等に準ずる者	神奈川
武庫	船越 征子	62歳	非農家・中立位的立場	
江尾	本高 善久	64歳		江尾・日光
柿原	奥田 隆範	65歳		江尾・日光
御机	中田 泰	64歳		米沢
下蚊屋	梅田 茂	66歳		米沢
貝田	遠藤 功	68歳		米沢
下安井	松原 憲治	75歳		神奈川

※任期 令和2年7月20日～令和5年7月19日(3年間)

◎政治倫理条例関係の報告

(政治倫理条例第5条により報告と掲載)

受付日	令和2年7月7日
企業名	株式会社かわばた
請負と企業との関係	代表取締役社長
契約の内容	江府町庁舎外構工事(1工区)
請負の方法	指名競争入札
契約金額	37,950,000円(消費税込)

私のひと言



洲河崎 岡本 司郎

空き家バンクで 移住

この春に空き家バンクを利用して益田市から江府町に夫婦で移住してきました。公共運動施設から出る低周波騒音が原因で我家を離れざるを得なくなり、約3年間、移住先を探してきました。移住地の希望として第一に大山が眺められる地、第二にハザードマップ上でリスクの少ない地を目標にしましたが、中々見つかりません。目標を一旦棚上げにし、3年間住める貸家を探したところ、NPO法人「こうふのたより」のお世話で、納屋の二階からは日野川が見え、幸運にも大山の稜線と南壁が眺められる素晴らしい家を洲河崎

に見つけることが出来ました。ただ、約4年間空き家の清掃にすごい日数と労力を費やしましたが、日々眺める大山に苦勞も吹き飛び、最近では穏やかな毎日を過ごしております。

不動産会社の扱う「売の家」や「貸家」は残置家財もなく直ちに入居できませんが、空き家バンク登録物件の多くには大量の残置家財があり、入居の妨げになっています。特に残置家財が家屋の老朽化やシロアリ被害の状況把握を困難にしていますので、家財を処分した上で登録する制度に変更すれば、移住促進につながるものと感じます。

私共は70歳を過ぎていますが、趣味を通じて皆様と楽しく過ごしたく思っています。

私は真空管のアンプ作りとアユ釣、妻は気功が趣味なので、ぜひ声をかけて下さい。



小江尾 大谷 典子

この町が 好きです

主人の故郷である江府町に来たのは、長男が2歳になったときの夏。早いものであれから9年が経ちました。

私の故郷は愛媛県、結婚し3年間は香川県高松市で暮らしていましたが、主人が体調を崩したことをきっかけに、主人の地元、江府町に帰ることを決意しました。江府町に来ると決めてからは不安でしかなく、泣いていた日もあったことを思い出します。せつかく出来た友達と離れることは本当に辛かったです。

そしてこの町に引っ越してきて、買い物1つにしても不便さを感じていた日々、「皆、どうしているんだらう?」と思うことがよくありました。また、ほとんど雪の降らない四国に

比べて豪雪地帯!最初は雪が降ると喜んでいました。そんなこと言っていたら、そんなにも1年目だけ!雪掻きがこんなにしんどいものとは思っていませんでした。タイヤ交換、雪道の車の運転、いまだに雪道の運転は慣れていませんが、宿命です。早く慣れなくては。(笑)

9年経った今も不便さが無いわけではないけれど、それを快適に考えています。なぜなら、私たち家族はご近所の方々に恵まれているから。だから今、こうやって素敵な町で暮らせているのです。本当に温かい方々ばかりです。「遠くの親戚より近くの他人」という言葉があるように季節ごとに新鮮な野菜などいたり、親戚以上に話をしたりと地域の活動にも参加したりと少しでも町民になれるように努力しています。認めてもらえているかは別として:(笑)この場をお借りして感謝いたします。

現在は、主人と小5の少し落ち着いた長男、小2のやんちゃ盛り次男で小江尾に住んでいます。まだまだわからないことだらけの私たちですが、今後ともよろしくお願ひします。



6月定例会が無事終了し新型「コナ」関連の補正予算も成立の運びとなりました。巷間にぎわす「コナ」ですが鳥取県においては最小の感染数に留まっています。

自粛緩和に伴い危機意識も緩みがちですが、世界的には感染者や犠牲者の数は勢いを緩めることなく増え続けています、そのような中日本の数値は世界のミクロルなのだそうです。

感染者の多い国を見ても、初期の対応が遅かったり十分でなかったように推測されます。翻って私たち議会も適切な議論と判断で安心安全な社会生活を目指さなければなりません。とはいえ一日も早い終息を願う毎日です。

川端登志一

広報公聴常任委員会

- 委員長 三好 晋也
- 副委員長 阿部 朝親
- 委員 三輪 英男
- 委員 空場 語

川端登志一